|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **哲　　学** | |
| 開講時期 | １年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | 30時間/15回 | |
| 担当者 | 中井　裕之 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 哲学の学習を通して、看護活動に必要とされる「人間」に対する深くて豊かな理解を目指すとともに、物事を筋道立てて考える能力、批判的・反省的思考力を身につけることを目指す | |
| 授業計画 | １　　授業の概略　哲学とは何か  ２　　哲学の領域　哲学の参考書　学問の女王としての哲学  　　　ドゥルーズの哲学  ３　　哲学の語義　日本の哲学　京都学派の哲学  ４　　哲学の方法　哲学の学び方　人間は何からできているか  　　　タレスの哲学　アルケーの探求  ５　　西田哲学　西田育多郎「善の研究」  　　　近代哲学と従来の哲学　自然哲学者たち  ６　　古代哲学の特徴　ポリスとギリシア哲学  　　　ギリシア哲学におけるパラドックス論  ７　　復習テスト実施　ギリシア哲学の発展と背景　自然哲学の諸相  ８　　古代ギリシアの数学　ソクラテスの哲学  ９　　ソクラテス哲学とソフィストの哲学  　　　プロタゴラスの哲学　ゴルギアスの哲学  10　　小ソクラテス学派の哲学  11 　 ディオゲネスの哲学　ラッセルの哲学　フーコーの哲学  　　　ハイデガーの哲学　ディオゲネスの哲学に対する解釈  12 　 プラトンのイデア論  13 　 プラトン哲学とアリストテレス哲学  14 　 ヘレニズム期とローマ期の哲学　エピクロスの哲学  　　　ゼノンの哲学　ピュロンの哲学　プロティノスの哲学  15 　 中世哲学　愛についての哲学的探究　アウグスティヌスの哲学  　　　トマスアクィナスの哲学　現代哲学と哲学の探究　まとめ | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 中間試験、課題レポート | |
| テキスト/参考書 | 道徳教育の基礎 | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 |  |
| 実務経験をいかした  教育内容 |  | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **論　理　学** | |
| 開講時期 | １年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | 30時間/15回 | |
| 担当者 | 遠藤　正水 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 論理学の学習を通して、小論文や報告書の作成のために必要なリテラシーを身につけること、および、看護活動に必要とされる「論理的思考」の涵養を目指す | |
| 授業計画 | １　　イントロダクション  ２　　接続関係と文章作成の決まりごと  ３　　接続の構造と起承転結  ４　　議論の組み立てと小論文の書き方  ５　　論証の構造  ６　　論証の構造と起承転結  ７　　起承転結を意識した小論文の書き方  ８　　資料を踏まえた小論文の書き方  ９　　演繹と推測の違い  10　　転を意識するための反論の仕方  11　　結に至るための導出の評価  12　　演繹の具体例・・・否定  13　　演繹の具体例・・・条件構造  14　　推論の技術  15　　まとめ | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験・課題レポート | |
| テキスト/参考書 | 看護学生が身につけたい論理的に書く・読むスキル（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 |  |
| 実務経験をいかした  教育内容 |  | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **統　計　学** | |
| 開講時期 | １年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | 30時間/15回 | |
| 担当者 | 全　　炳昊 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 看護を科学的に追究する  看護研究などに必要な統計学の知識を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　オリエンテーション  ２　　度数分布とヒストグラム  ３　　平均値の意味と役割  ４　　分散と標準偏差  ５　　標準偏差の理解と活用  ６　　正規分布とは何か  ７　　仮説検定の考え方  ８　　区分推定  ９　　「部分」によって「全体」を推論する  10　　相関・因果関係・回帰分析  11　　質的データからわかること  12　　カイ二乗分布で推定する  13　　t分布による区間推定  14　　実習・課題総括（まとめ）  15　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 | 身近なところからデータを取得・生成し、授業の中で実際に活用できるよう取り組む | |
| 時間外学修 | 医療・保険関連のデータや資料を随時まとめておく | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | なし | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 専門社会調査士 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 社会調査の企画・実施・分析に関する授業（演習）の運用 | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **情報科学** | |
| 開講時期 | １年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | 15時間/8回 | |
| 担当者 | 全　　炳昊 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 情報を処理するためのコンピューターの基本的操作を身につける | |
| 授業計画 | １　　オリエンテーション：（情報科学入門）  ２　　コンピュータ―の基礎：（MS-word入門①）  ３　　情報の表現と保存・伝達（MS-word入門②）  ４　　情報（データ）の表現と保存：（MS-Excel入門①）  ５　　情報（データ）の分析：（MS-Excel入門②）  ６　　情報のまとめ：（PowerPoint入門①）  ７　　プレゼンテーション：（PowerPoint入門②）  ８　　総括・テーマの設定と発表 | |
| その他の授業の工夫 | 検定問題（３・４級）を授業で扱うことで、実践力につなぐ | |
| 時間外学修 | 普段、遊び感覚でMOSを使ってみること | |
| 評価方法と評価割合 | プレゼンテーションによる評価（受講生による相対評価） | |
| テキスト/参考書 | なし | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 専門社会調査士 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 社会調査の企画・実施・分析に関する授業（演習）の運用 | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **教　育　学** | |
| 開講時期 | １年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | 30時間/15回 | |
| 担当者 | 石井　基博 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 教育が目的とする成長・発達と人間性の形成について理解を深める。それとともに、看護活動に密接に関係する教育の意義の十分な認識を目指す。また、教育と看護の共通点についても注目していく。 | |
| 授業計画 | １　　１．教育とはなにか　１）教育の語義と定義  ２　　１．教育とはなにか　１）教育の語義と定義  ３　　１．教育とはなにか　２）教育の本質  ４　　１．教育とはなにか　２）教育の本質  ５　　１．教育とはなにか　３）教育と看護の関連について  ６　　１．教育とはなにか　３）教育と看護の関連について  ７　　１．教育とはなにか　３）教育と看護の関連について  ８　　１．教育とはなにか　３）看護と教育  ９　　１．教育とはなにか　４）学校教育の特徴  10　　１．教育とはなにか　４）学校教育の特徴  11　　２．教育は何を目指すのか　１）人間とはどのような存在か  12　　２．教育は何を目指すのか　２）人格や人間性といわれる理念の誕生  13　　２．教育は何を目指すのか  ２）人格や人間性といわれる理念の誕生  14　　２．教育は何を目指すのか　３）人間性の形成  15　　２．教育は何を目指すのか　３）人間性の形成  記述試験 | |
| その他の授業の工夫 | それぞれの授業テーマに関して、グループディスカッションおよびその後の発表・意見交換などの協同学習の形態を採り入れながら授業を進める。 | |
| 時間外学修 | 自宅での学習は復習を中心に行う。また、教育学に関するレポート資料を通読して、1200字程度の中間レポートを作成する。 | |
| 評価方法と評価割合 | 中間レポート30％・平常点10％・終講試験60％ | |
| テキスト/参考書 | 最新教育原理（勁草出版） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 |  |
| 実務経験をいかした  教育内容 |  | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **倫　理　学** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 20時間/10回 | |
| 担当者 | 石井　基博 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 人間の生き方、社会の在り方についての倫理学的な基本概念を理解する。それとともに、医療の現場で実際に直面する生命倫理・看護倫理の諸問題について理解を深めることを目指す。 | |
| 授業計画 | １　　倫理学とはなにか  ２　　生命倫理の諸問題　１）生命倫理とはなにか  ３　　生命倫理の諸問題　１）生命倫理とはなにか  ４　　生命倫理の諸問題　２）生命倫理の４原則  ５　　看護倫理とは何か　１）看護の倫理原則  ６　　看護倫理とは何か　２）看護実践上の倫理的概念  ７　　看護倫理とは何か　２）看護実践上の倫理的概念  ８　　生命倫理の諸問題　３）パターナリズムからインフォームドコンセントへ  ９　　生命倫理の諸問題　４）パーソン論  10　　生命倫理の諸問題　４）パーソン論  記述試験 | |
| その他の授業の工夫 | それぞれの授業テーマに関して、グループディスカッションおよびその後の発表・意見交換などの協同学習の形態を採り入れながら授業を進める。 | |
| 時間外学修 | 自宅での学習は復習を中心に行う。また、生命倫理に関するレポート資料を通読して、1200字程度の中間レポートを作成する。 | |
| 評価方法と評価割合 | 中間レポート30％・平常点10％・終講試験60％ | |
| テキスト/参考書 | 看護倫理（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 |  |
| 実務経験をいかした  教育内容 |  | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **社　会　学** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 30時間/15回 | |
| 担当者 | 新矢　昌昭 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．現代の社会と看護のあり方を考える  ２．現代の家族に関するさまざまな問題を考える | |
| 授業計画 | １　　社会学とはどんなものか  ２　　近代社会の特徴  ３　　西洋の家族の歴史（近代家族）  ４　　日本の家族の歴史（近代家族）  ５　　現代社会の特徴  ６　　家族と現代社会  ７　　配偶者選択と恋愛・性  ８　　ジェンダーとは何か  ９　　夫婦関係とドメスティックバイオレンス  10　　日本の社会文化と人間関係  11　　子どもの社会化と児童虐待  12　　家族と看護  　　　　１）家族の機能  ①家族関係  ②疾病が患者家族に与える心理的影響  13　　高齢者と介護問題  14　　九州生体解剖事件、社会学とは、まとめ  15　　国立民族学博物館　見学 | |
| その他の授業の工夫 | 分からない所があれば、講義後に聞いてください。 | |
| 時間外学修 | なし | |
| 評価方法と評価割合 | レポート（100％） | |
| テキスト/参考書 | プリントを適宜使用する。 | |
| 教員の実務経験 | 有・無 | 私立綾羽高等学校 |
| 内　容 | 現代社会担当 |
| 実務経験をいかした  教育内容 |  | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **英　　語** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 30時間/15回 | |
| 担当者 | Jairzinho Adeyina | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 基礎的な英会話を習得し、臨床場面に活用できる英語の能力を身につける | |
| 授業計画 | １　　Introduced themselves and we started looking at the characters  in the book.  ２　　Practicing making requests and offer.  ３　　The language for getting through immigration.  ４　　Make requests and how to respond.  ５　　Ordering food at a restaurant.  ６　　Destination :UK and did listening practice  ７　　Giving directions.  ８　　Can I use my card in this ATM?  ９　　Do you have a non-smoking room?  10　　I have a stomachache.  11　　I’m from Japan.  12　　Destination :New Zealand  13　　We’re staying five more days.  14　　What time does it start?  15　　Test | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | PASSPORT 1(OXFORD) | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 |  |
| 実務経験をいかした  教育内容 |  | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **人間関係論** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 30時間/15回 | |
| 担当者 | 沢井　智子 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 自分自身の性格、特にこれまで意識してこなかった自分の良い面や気をつけるべき点を確認し、より充実した人間関係を送れるようにすることと、特に病む人に接する心構えをつくることを目標とする。 | |
| 授業計画 | １　　心理検査体験：WAIS・MMSE・ロールシャッハ・HTPPの体験  ２　　心とは何か？：意識・無意識の存在、パーソナリティとは、など  ３　　ライフサイクル①：エリクソンの心理社会的危機（前半）  ４　　ライフサイクル②：エリクソンの心理社会的危機（後半）  ５　　親の養育態度によるパーソナリティの形成：親子関係テストなど  ６　　アイデンティティ：自己概念、同一性障害、20答法の体験など  ７　　自己理解から他者理解：価値観、自己開示、受容と共感、など  ８　　アサーション：適切な自己表現の必要性、DESC法、など  ９　　ストレス：ストレスのメカニズム、ストレス障害(適応障害)など  10　　心の病①：気分障害と抑うつ状態、”死にたい”という訴え、など  11　　心の病②：解離、自傷行為(リストカット)をする理由、など  12　　精神力動：構造論(イド、自我、超自我)、自我機能、など  13　　カウンセリング①：聴き方（受容・共感・繰り返し）、転移、夢  14　　カウンセリング②：行動療法、認知行動療法、分析的心理療法  15　　患者さんとのコミュニケーション：聴くこと、わかること、など | |
| その他の授業の工夫 | 心理検査や心理療法の実習、心を理解するための映画の紹介、など。 | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験でご自身の考えなどを問う問題を2問出題、記述式問題 | |
| テキスト/参考書 | 人間関係がよくわかる心理学（福村出版） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 総合病院精神科、さわ病院などで、臨床心理士として勤務 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 心理検査の体験や解釈を通じて、自分自身についての理解を深める。  心理療法で用いる聴き方などのロールプレイを行う。  実際の事例を提示しつつ、臨床に活かせる知識の共有を目指す。 | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **解剖生理学１** | |
| 開講時期 | １年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | 20時間/10回 | |
| 担当者 | 高木　宏 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．人体とはどういうものか。人体の素材としての細胞・組織について学ぶ  ２．消化器系、呼吸器系、循環器系の解剖・生理について学び、正常な人体および疾患理解の基礎とする | |
| 授業計画 | １　　序章～第１章　細胞  ２　　第１章　組織～体液とホメオスタシス  ３　　第２章　栄養の消化と吸収（１）  ４　　第２章　栄養の消化と吸収（２）  ５　　第３章　呼吸器の構造と機能  ６　　第３章　血液  ７　　第４章　心臓の構造と拍出機能  ８　　第４章　末梢循環系の構造（１）  ９　　第４章　末梢循環系の構造（２）  10 　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 解剖生理学（医学書院）/病気の地図帳（講談社） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 |  |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床医としての経験と共に研究的な解剖学の視点を活かし、看護実践に活用できる授業を行う | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **解剖生理学２** | |
| 開講時期 | １年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | 30時間/15回 | |
| 担当者 | 高木　宏 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 腎・泌尿器系、内分泌系、骨・筋系、脳神経系、感覚器、生殖器系の解剖・生理について学び、正常な人体および疾患理解の基礎とする | |
| 授業計画 | １　　第５章　腎臓の構造と機能  ２　　第５章　体液の調節  ３　　第６章　自律神経、内分泌系（１）  ４　　第６章　内分泌系（２）  ５　　第７章　骨格・骨格筋の構造  ６　　第７章　骨格筋の構造と機能  ７　　第８章　神経系の構造と機能、脊髄・脳  ８　　第８章　脊髄神経と脳神経  ９　　第８章　脳の高次機能、錐体路  10　　第８章　上行伝導路、視覚伝導路  第８章　眼の構造と視覚  11　　第８章　耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚・嗅覚  12　　第９章　皮膚の構造と機能、体温  13　　第10章　男性生殖器、女性生殖器（１）  14　　第10章　女性生殖器（２）  15　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 解剖生理学（医学書院）/病気の地図帳（講談社） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床医としての経験と共に研究的な解剖学の視点を活かし、看護実践に活用できる授業を行う | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **代謝栄養学　代謝学** | |
| 開講時期 | １年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | 15時間/8回 | |
| 担当者 | 高木　宏 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 生命維持に不可欠な栄養素の働きとその代謝過程を理解する | |
| 授業計画 | １　　第１章　代謝総論  第2章　栄養素の構造と性質：細胞  ２　　第２章　栄養素の構造と性質：糖類  ３　　第２章　栄養素の構造と性質：脂質、タンパク質、核酸、  ビタミン  　　　第３章　酸素  ４　　第４－１章　糖質代謝  ５　　第５章　エネルギー代謝の統合と理解  第４－２章　脂質代謝  ６　　第４－３章　タンパク質とアミノ酸の代謝  　　　第４－４章　核酸・ヌクレオチドの代謝  ７　　第６章　遺伝情報  ８　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 臨床生化学（メディカ出版） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、人間の生命維持に不可欠な栄養素の働きとその代謝過程を授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **代謝栄養学　栄養学** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 15時間/8回 | |
| 担当者 | 逵　　妙美 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 人間にとっての栄養の意義および健康障害時の食事療法の基本を習得し、看護業務に活かせるようになる | |
| 授業計画 | １　　人間栄養学と看護  　　　看護と栄養　食事における看護師の役割  ２　　栄養素の種類とはたらき  　　　＊日本人の食事摂取基準（2020年版）  ３　　エネルギー代謝  　　１）三大栄養素のエネルギー  ４　食べ物の消化と栄養素の吸収・代謝  　　１）消化器系のしくみとはたらき  　　２）栄養素の消化・吸収  　　３）栄養素の代謝  ５　　チームアプローチと栄養ケア・マネジメント  　　１）チーム医療における看護師の役割  　　２）看護師と栄養ケア・マネジメント  　　　　栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケア計画  　　　　実施、モニタリング、栄養ケア・マネジメントの評価  ６　　栄養状態の評価と判定  　　１）栄養アセスメントの方法  　　　　身体計測、臨床検査、臨床診査、食事調査  ７　　臨床栄養  　　１）病院食の意義  　　２）栄養補給法  　　３）疾患別食事療法  ８　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 栄養学（医学書院）/新食品成分表FOODS2022（東京法令出版）  糖尿病食事療法のための食品交換表（日本糖尿病協会・文光堂） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 管理栄養士 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 多様な臨床現場で管理栄養士としての実践経験を活かし、人間にとっての栄養の意義および健康障害時の食事療法の基本について看護に生かせる授業を行う | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **病態生理学　病理学** | |
| 開講時期 | １年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | 15時間/8回 | |
| 担当者 | 高木　　宏 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 健康から疾病に至る変化のプロセスを理解する | |
| 授業計画 | １　　病理学序章  ２　　再生と修復、循環障害  ３　　炎症、免疫とアレルギー（１）  ４　　免疫とアレルギー（２）、代謝異常  ５　　老化と老年病、新生児の病理  ６　　先天異常、腫瘍（１）  ７　　腫瘍（２）、生命の危機  ８　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験　50点　病態生理学と合わせて評価する | |
| テキスト/参考書 | カラーで学べる病理学（ﾇｰｳﾞｪﾙ･ﾋﾛｶﾜ）/病気の地図帳（講談社） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |

|  |  |
| --- | --- |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、人間の生命維持に不可欠な栄養素の働きとその代謝過程を授業する |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **病態生理学　病態生理学** | |
| 開講時期 | １年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | 15時間/8回 | |
| 担当者 | 並川　好美 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 疾病がもたらす身体の内部の変化について、病態生理的に理解して、疾病の成り立ちや症状を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　病態生理学を学ぶ意義  疾病の看護学的視点  ２　　心臓のポンプ機能の障害  ３　　心臓のポンプ機能の障害  ４　　冠動脈の閉塞による左心不全  ５　　弁の機能不全による心不全  ６　　終講試験（口頭試問）  ７　　終講試験（口頭試問）  ８　　まとめ | |
| その他の授業の工夫 | アクティブラーニングを取り入れ、主体的に学べるようにする。口頭試問の試験を行うことにより知識の定着・確認を行う。 | |
| 時間外学修 | なし | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験50点　病理学と合わせて評価する | |
| テキスト/参考書 | カラーで学べる病理学（ﾇｰｳﾞｪﾙ･ﾋﾛｶﾜ）・解剖生理学（医学書院）  成人看護学〔３〕循環器（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 |  |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 特定機能病院での臨床経験を活かし、看護の視点で疾病がもたらす身体の内部の変化について、病態生理的に理解して、疾病の成り立ちや症状について理解できる授業を行う | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **微生物・感染症　微生物・感染症** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 15時間/8回 | |
| 担当者 | 高木　　宏 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 微生物学の基本的知識と微生物等による感染症についての基礎知識を学習する | |
| 授業計画 | １　　微生物・感染症概論  ２　　呼吸器感染症  ３　　消化器系感染症  ４　　肝炎  尿路感染症  性感染症  ５　　皮膚・粘膜の感染症  　　　発疹とウイルス感染症  　　　脳・神経系感染症  ６　　人畜共通感染症・寄生虫感染症  　　　輸入感染症  小児感染症  母子感染  　　　高齢者感染症  　　　日和見感染症・移植等による感染症  ７　　感染防御機構の基礎  　　　感染・発症予防（ワクチン・滅菌・消毒）  　　　感染症の検査と治療  ８　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 臨床微生物・医動物（メディカ出版） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、微生物学の基本的知識と微生物等による感染症について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **微生物・感染症　免疫・血液疾患** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 15時間/8回 | |
| 担当者 | 高木　宏 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．免疫機能の障害とその治療について理解する  ２．造血機能の障害とその治療について理解する | |
| 授業計画 | １　　血液の生理と造血のしくみ  　　　検査・診断と症候・病態生理  ２　　造血機能の異常・貧血  ３　　造血機能の異常・白血病  ４　　アレルギー反応とその機序  ５　　アレルギー疾患  ６　　自己免疫疾患（１）  ７　　自己免疫疾患（Ⅱ）  ８　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 成人看護学〔４〕血液・造血器（医学書院）  成人看護学〔11〕アレルギー　膠原病　感染症（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、免疫機能・造血機能の障害とその治療について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **疾病と治療１　呼吸器疾患** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 10時間/5回 | |
| 担当者 | 高木　宏 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 呼吸機能の障害とその治療について理解する | |
| 授業計画 | １　　第１章　呼吸器の看護を学ぶにあたって  　　　第２章　呼吸器の構造と機能  ２　　第３章　症状とその病態生理  ３　　第４章　検査と治療・処置  　　　第５章　疾患の理解；感染症（１）  ４　　第５章　疾患の理解；感染症（２）  ５　　第５章　疾患の理解；肺腫瘍 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験　30点分 | |
| テキスト/参考書 | 成人看護学〔２〕呼吸器（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、呼吸機能の障害とその治療について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **疾病と治療１　循環器疾患** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 10時間/5回 | |
| 担当者 | 小林　克弘 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 循環機能の障害とその治療について理解する | |
| 授業計画 | １　　心臓の解剖と生理  ２　　心不全の診断と治療  ３　　虚血性心不全の診断と治療  ４　　大動脈瘤・弁膜症  ５　　高血圧 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験　30点分 | |
| テキスト/参考書 | 成人看護学〔３〕循環器（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、循環機能の障害とその治療について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **疾病と治療１　消化器疾患** | |
| 開講時期 | １年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | 10時間/5回 | |
| 担当者 | 清田　清史 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 栄養摂取・代謝機能の障害とその治療について理解する | |
| 授業計画 | １　　食道がん　食道アカラシア  　　　胃食道逆流症  ２　　胃・十二指腸疾患  　　　胃炎・慢性胃炎・機能性ディスペプシア・ピロリ菌  　　　胃・十二指腸潰瘍  ３　　胃癌（分類・原因・治療）  ４　　腸炎・胆のう炎  ５　　結腸憩室・ポリープおよびポリポーシス  　　　大腸がん・肛門疾患  　　　肝不全・肝障害・脂肪肝 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験　40点分 | |
| テキスト/参考書 | 成人看護学〔５〕消化器（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、栄養摂取・代謝機能の障害とその治療について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **疾病と治療２　代謝・内分泌疾患** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 1５時間/８回 | |
| 担当者 | 高木　　宏 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．内分泌機能の障害とその治療について理解する  ２．代謝機能の障害とその治療について理解する | |
| 授業計画 | １　　代謝疾患；糖尿病（１）  ２　　代謝疾患；糖尿病（２）  ３　　代謝疾患；脂質異常症  ４　　代謝疾患；肥満症・痛風  ５　　内分泌器の構造と機能、内分泌疾患の理解  ６　　内分泌疾患の症状・検査  ７　　内分泌疾患の理解  ８　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験　100点分 | |
| テキスト/参考書 | 成人看護学〔６〕内分泌・代謝（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、内分泌・代謝機能の障害とその治療について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **疾病と治療２　感覚器疾患：視覚機能障害** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 4時間/2回 | |
| 担当者 | 安藤　　誠 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 感覚機能の障害とその治療について理解する | |
| 授業計画 | １　　眼疾患患者の接し方  　　　眼の解剖生理  ２　　検査および疾患各論 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | なし | |
| テキスト/参考書 | 成人看護学〔13〕眼（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、感覚機能とその治療について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **疾病と治療２　感覚器疾患：聴覚機能障害** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 4時間/2回 | |
| 担当者 | 上月　景之 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 感覚機能の障害とその治療について理解する | |
| 授業計画 | １　　耳鼻咽喉の解剖生理  ２　　耳鼻咽喉疾患の理解 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | なし | |
| テキスト/参考書 | 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、感覚機能とその治療について授業する | |
| 科目名 | **疾病と治療２　感覚器疾患：歯科・口腔器疾患** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 3時間/2回 | |
| 担当者 | 岩谷　俊彦 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 感覚機能の障害とその治療について理解する | |
| 授業計画 | １　　歯・口腔の解剖生理  ２　　歯・口腔疾患の理解 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | なし | |
| テキスト/参考書 | 成人看護学〔15〕歯・口腔（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、感覚機能とその治療について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **疾病と治療２　感覚器疾患：皮膚の障害と治療** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 4時間/2回 | |
| 担当者 | 高木　　宏 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 感覚機能の障害とその治療について理解する | |
| 授業計画 | １　　皮膚の構造と機能、症状とその病態、検査  　　　疾患の理解（Ⅰ）  ２　　疾患の理解（Ⅱ） | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | なし | |
| テキスト/参考書 | 成人看護学〔12〕皮膚（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、皮膚の機能の障害とその治療について授業する | |
| 科目名 | **疾病と治療３　脳神経疾患** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 10時間/5回 | |
| 担当者 | 村松　宏美 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 中枢神経機能の障害とその治療について理解する | |
| 授業計画 | １　　大脳・小脳・脳幹の役割について  ２　　脳神経12対、意識障害の評価（JCS・GCS）  ３　　クモ膜下出血（検査・治療・合併症・看護）  ４　　脳出血、正常圧水頭症、脳梗塞（発生機序など）  ５　　脳梗塞（治療・検査など）、もやもや病、頭部外傷 | |
| その他の授業の工夫 | パワーポイントでの可視化 | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 成人看護学〔７〕脳・神経（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 脳神経外科での臨床経験と認定看護師としての経験を活かし、中枢神経機能の障害とその治療について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **疾病と治療３　運動器疾患** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 10時間/5回 | |
| 担当者 | 藤田　美穂 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 運動機能の障害とその治療について理解する | |
| 授業計画 | １　　運動器の機能と意義  ２　　運動器の機能を知るための方法  ３　　運動器機能障害における診断と治療  ４　　運動機能障害における治療・処置  ５　　運動器疾患と治療 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 成人看護学〔10〕運動器（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 大学病院での外科病棟の経験を活かし、看護の視点に立った運動機能の障害とその治療について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **疾病と治療３　腎・泌尿器疾患** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 10時間/5回 | |
| 担当者 | 山田　龍一 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 排泄機能の障害とその治療について理解する | |
| 授業計画 | １　　腎臓の構造と機能  ２　　尿管・膀胱・男性生殖器の構造と機能  ３　　泌尿器の検査  ４　　泌尿器系の疾患と治療  ５　　泌尿器系の疾患と治療 | |
| その他の授業の工夫 | スライドを多用して理解を深める | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 成人看護学〔８〕腎・泌尿器（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、排泄機能の障害とその治療について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **治療論　麻酔と外科的療法** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 15時間/8回 | |
| 担当者 | 木村　正治 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 疾病の回復を促進する手術療法の原理を理解する | |
| 授業計画 | １　　近代外科の歴史  　　　手術侵襲と生体反応  ２　　ムーアの分類  サイトカインと麻酔について  ３　　麻酔の種類　気管挿管について（麻酔器と麻酔合併症）  　　　全身麻酔・局所麻酔・硬膜外麻酔  ４　　消化器疾患の手術療法・放射線療法・化学療法  ５　　胃がん・大腸がん・食道がんの手術療法  ６　　ピロリ菌・胆石の手術療法  ７　　大腸がんの手術療法  ８　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 臨床外科看護総論（医学書院）・成人看護学〔５〕消化器（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、疾病の回復を促進する手術療法について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **治療論　リハビリテーション** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 15時間/8回 | |
| 担当者 | 神田　龍馬 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | リハビリテーションの概念とリハビリテーション技術を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　リハビリテーション概論、リハビリテーション評価  ２　　リハビリテーション評価  　　　動作に必要な筋力  ３　　運動器リハビリテーション  ４　　リハビリテーションの評価実習（ROM・MMT）  ５　　脳血管リハビリテーション  心臓リハビリテーション  ６　　呼吸器リハビリテーション  患者介助演習：起き上がり、寝返り  ７　　患者介護演習：立ち上がり、車椅子移乗  ８　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | リハビリテーション看護（メヂカルフレンド社） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 理学療法士 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 理学療法士としての臨床経験を活かし、リハビリテーションの概念とリハビリテーション技術を授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **薬理学　薬理学１** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 20時間/10回 | |
| 担当者 | 天正　雅美 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 薬物の薬理作用および人体の影響と薬物の管理を学び、臨床で有害な作用を早期に発見し、対応できる力を身につける | |
| 授業計画 | １　　薬理学とは　薬理学を学ぶにあたって  　　　薬理学の基礎知識（総論）  ２　　薬物代謝と排泄  ３　　感染症治療に関する基礎知識  抗菌薬  ４　　抗菌薬・抗ウイルス薬・抗真菌薬  末梢神経に作用する薬物  ５　　中枢神経に作用する薬物  ６　　循環器系に作用する薬物  ７　　循環器系に作用する薬物  ８　　血液凝固系・線溶系に作用する薬物  ９　　物質代謝に作用する薬物  10　　抗がん薬 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 薬理学（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 薬剤師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 薬剤師としての臨床経験を活かし、薬物の薬理作用および人体への影響と薬物の管理について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **薬理学　薬理学２** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 10時間/5回 | |
| 担当者 | 並川　好美 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．薬物の体内での働き、作用を及ぼす影響を説明できる  ２．臨床で多く用いられる薬物の適用を説明できる  ３．臨床で用いられる代表的な薬の投与上の注意点を説明できる  ４．妊婦・小児・高齢者における薬物治療の影響を説明できる | |
| 授業計画 | １．看護業務に必要な薬の知識  ２．「今日の治療薬」を使った薬の理解  ３．薬物動態・疾病と薬  ４．薬の疑問  ５．疾病・発達段階に応じた薬物治療の影響 | |
| その他の授業の工夫 | グループワークを通して学習を深める | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 薬理学（医学書院）/今日の治療薬2022（南江堂） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 |  |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での臨床経験を活かし、看護の視点に立った薬物の体内動態について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **総合医療論** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 15時間/8回 | |
| 担当者 | 高木　宏 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．保健・医療・福祉を総合的に理解し、人々の健康を保持・増進するための方法について学習する  ２．医学の歴史や現代医療について学び、医療の現状と課題を考える | |
| 授業計画 | １　　看護の「心」とは  日本の医療の現状と評価  ２　　医療と看護の原点（生と死）（Ⅰ）  　　　安楽死・尊厳死・平穏死を考える  ３　　医療と看護の原点（生と死）（Ⅱ）  　　　日本人の死生観  ４　　医療と看護の原点（生と死）（Ⅲ）  　　　メメントモリ  　　　臨死体験  ５　　医療と看護の原点（生と死）（Ⅳ）  　　　世界の宗教観  ６　　医療の歩みと医療観の変遷  ７　　現代社会と心の病  ８　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | なし | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床医としての経験を活かし、医学の歴史や医療の現状と課題について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **公衆衛生** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 15時間/8回 | |
| 担当者 | 菊川　縫子 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．人間の健康を保持増進する社会、環境と健康のかかわりについて理解する  ２．公衆衛生の現状を知り、今日的保健対策の理解に努める。また、急速な少子高齢化社会に伴う医療、保健、福祉の問題、新興国の急速な発展に伴う環境問題（大気・水質・土壌汚染・温暖化問題と放射線の基礎知識）と健康への影響、地域保健など幅広く学ぶ | |
| 授業計画 | １　公衆衛生学的序論  健康問題の変遷：公衆衛生と医療の歴史、健康測定と健康指標  　　人口統計；世界と日本の人口の歴史、  人口の静態統計・動態統計  ２　疫学；疫学の定義、方法、分類  疾病予防：健康管理  主な疾病；感染症、循環器疾患（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）、メタボリック症候群など  ３　環境保健  　　　　人間の環境；地球の生態系（地圏・気圏・水圏・生物圏）  環境汚染から地球環境問題へ  廃棄物の問題、公害と環境問題  ４　地域保健  　　　　地域保健活動、行政など  　　母子保健  　　　　母子保健統計、保健活動  保健の現状と動向など  学校保健  子どもの健康状態、ライフスタイルの現状、学校保健管理など  ５　産業保健  　　　　働く人々の健康と職業病  職場の健康診断と健康増進  ６　高齢者保健・医療・介護  　　　高齢者の生活と健康、介護保険、歯科保健、特定疾患  ７　　精神保健  　　　　精神の健康とは、精神障害の現状と動向・現状と分類  ８　終講試験 | |
| 学生へのメッセージ | 我が国の保健統計を過去から現在と傾向を比較し、先進国、新興国との国際比較もしてみること。ニュース、新聞、TVなどの報道も見聞すること | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | シンプル衛生公衆学（南江堂）/国民衛生の動向（厚生統計協会） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 大阪府下の4市（箕面市、伊丹市、摂津市、東大阪市）の健康分析と指導に携わっている |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 日本公衆衛生学会での保健活動の経験を活かし、人間の健康を保持増進するための社会や環境と健康のかかわりについて授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **社会福祉** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 30時間/15回 | |
| 担当者 | 川崎　拓未 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 社会福祉の概念を学び、人が地域社会で生活するためのサポートシステムと活動の実際を学習する | |
| 授業計画 | １　　授業概要  ２　　現代社会と社会福祉・社会保障  ３　　社会保障・社会福祉とは  ４　　社会福祉・社会保障の歴史、ひきこもりと8050問題  ５　　社会福祉の担い手と役割、社会福祉サービスの体系と提供組織  ６　　地域福祉の理念と定義、地域福祉計画、地域福祉推進の財源  ７　　こどもの権利、子育て支援・少子化対策、母子保健施策  ８　　障害児・者と福祉、障害者総合支援法  ９　　高齢者保健福祉、介護保険、高齢者福祉の課題  10　　公的扶助、生活保護の種類・範囲・方法、生活困窮者対策  11　　年金制度のしくみ、医療保険のしくみ  12　　介護保険のしくみ、雇用保険のしくみ、労災保険のしくみ  13　　社会保険制度復習テスト・国家試験問題  　　　生活と福祉  14　　テスト前の演習  15　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 社会福祉と社会保障（メディカ出版） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 社会福祉士 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 精神保健福祉士、相談支援専門員としての経験を活かし、人が地域社会で生活するためのサポートシステムと活動の実際を授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **関係法規** | |
| 開講時期 | ２年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 15時間/8回 | |
| 担当者 | 仁科　昌久 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．看護師の職責を正しく遂行するために、関係法規の理解が必要であることを認識する  ２．看護にとって重要な衛生法規、福祉法規について学習する | |
| 授業計画 | １　　関係法規のイントロダクション、労働基準法①  ２　　労働基準法②、労働安全衛生法①  ３　　労働安全衛生法②、産業医、安全委員会、衛生委員会  ４　　安全衛生委員会、職業性悪性腫瘍の原因について  ５　　労働者災害補償保険法、男女雇用機会均等法、公害健康被害補償  　　　法  ６　　環境基本法、廃棄物処理法、感染症法、検疫法  ７　　上水道法、下水道法、食品衛生法、国際条約  ８　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 看護関係法令（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 |  | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **看護概論** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 10時間/5回 | |
| 担当者 | 石川　美佐子 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．看護の対象である人間の理解を深め、健康・環境について説明できる  ２．社会における看護の位置づけを明確にし、求められる役割を説明できる  ３．看護観の確立のための基盤として、先人の看護論を述べる  ４．看護実践者として必要な倫理的判断力を表現できる | |
| 授業計画 | １　　看護概論を学ぶ意義と背景  ２　　「生活」とは  ３　　「人間」とは、看護と人間、「環境」とは、人間と環境  ４　　「健康」とは、健康と生活  ５　　人間、環境、看護、健康の関連  ６　　看護についての理論  ７　　看護の変遷とこれからの看護 | |
| その他の授業の工夫 | 自分の考えを表現できる機会を作る | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験30％ | |
| テキスト/参考書 | 看護概論（医学書院）/看護覚え書（現代社）・よくわかる看護者の倫理綱領（照林社） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院における整形外科、内科等の病棟勤務にて幅広い臨床経験を活  かし、看護学への導入、人間、環境、健康、看護の理解を広げる授業を  行う | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **看護概論** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 20時間/10回 | |
| 担当者 | 福田　惠子 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．看護の対象である人間の理解を深め、健康・環境について考える  ２．社会における看護の位置づけを明確にし、求められる役割を考える  ３．看護観の確立のための基盤として、先人の看護論を学ぶ  ４．看護実践者として必要な倫理的判断力を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　「病気は回復過程である」DVD  　　　ナイチンゲール「看護覚え書」　序章　換気と保湿  ２　　小管理おせっかいな励ましと忠告  ３　　清潔　　物音　変化  ４　　陽光　　病人の観察  ５　　おわりに　　補章　まとめ  ６　　倫理を学ぶ意義　　看護実践と倫理  ７　　倫理綱領　条文  ８　　倫理に関する事例  ９　　倫理に関する事例  10　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 | 抄読会 | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験70％ | |
| テキスト/参考書 | 看護概論（医学書院）/看護覚え書（現代社）・よくわかる看護者の倫理綱領（照林社）・看護倫理（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院における様々な病棟勤務にて幅広い臨床経験を活かし、看護の倫理を踏まえた看護の理解を広げる授業を行う | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **基礎看護技術Ⅰ　技術概論** | |
| 開講時期 | １年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | 10時間/5回 | |
| 担当者 | 丸島　美紗 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 看護技術を看護実践の中で活用することの意味と看護実践の基盤となる考え方について学ぶ | |
| 授業計画 | １　　授業計画について、看護技術とは何か  ２　　看護技術とは何か、看護技術の特徴  ３　　看護技術の特徴、基本動作  ４　　看護技術の特徴、基本動作  ５　　技術を発展させる要素、看護技術演習、本校の技術 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 課題レポート | |
| テキスト/参考書 | 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）・基礎看護技術Ⅱ（医学書院）/  キラリ看護（医学書院）・看護の基本となるもの（日本看護協会出版会） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 助産師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 母性看護学領域における幅広い臨床経験を活かし、看護実践の基盤となる看護技術の特徴について授業を行う | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **基礎看護技術１　コミュニケーション** | |
| 開講時期 | １年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | 20時間/10回 | |
| 担当者 | 安部　由美子 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．看護におけるコミュニケーションの意義と方法を説明できる  ２．看護における人間関係成立のためのコミュニケーション技術を実践  できる | |
| 授業計画 | １　　コミュニケーションの意義と目的  　　　看護におけるコミュニケーション  ２　　コミュニケーションの構成要素、ミスコミュニケーション  　　　コミュニケーションの種類  ３　　関係構築のためのコミュニケーションの基本  　　　ディスカッション  ４　　ディスカッション、クラス目標  ５　　効果的なコミュニケーション技術  ６　　効果的なコミュニケーション  ７　　看護理論家のコミュニケーションの考え方、プロセスレコード  　　　演習の説明  ８　　コミュニケーション演習  ９　　コミュニケーション演習  10　　コミュニケーション演習の振り返り、接遇、ホスピタリティ | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 課題レポート | |
| テキスト/参考書 | 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 精神科を中心とした病院に勤務し、臨床経験を活かした精神看護学を担当するとともに、看護の基本となる人間関係を幅広く理解し、対象理解を深める授業を行う | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **基礎看護技術２　ヘルスアセスメント** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 10時間/5回 | |
| 担当者 | 佐藤　芳恵 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 系統的な観察、問診、視診、聴診、打診により、対象の健康状態を身体的・精神的・社会的側面から把握し、評価する技術を習得する | |
| 授業計画 | １　看護におけるヘルスアセスメント  ２　フィジカルアセスメントに必要な技術  ３　系統別フィジカルアセスメント  ４　系統別フィジカルアセスメント  ５　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 | DVD視聴、演習 | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験（記述式・技術評価） | |
| テキスト/参考書 | 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験  実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での臨床経験を活かし、ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの技術を活用した対象理解を深める授業を行う | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **基礎看護技術２　看護過程** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 20時間/10回 | |
| 担当者 | 安部　由美子 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．看護過程の概念と構成要素を述べることができる  ２．事例を用いて、看護上の問題を明確にし、問題を解決するための看護過程を展開する具体的な方法を実施することができる | |
| 授業計画 | １　　看護過程の概念、看護過程の構成要素  ２　　アセスメント  ３　　ヘンダーソンの看護論　情報収集の方法  ４　　基本的欲求に影響を与える常在条件と病理的状態  ５　　事例患者の情報収集の実際  ６　　常在条件の情報整理、分析・解釈  ７　　関連図　看護上の問題  ８　　看護計画立案  ９　　事例患者さんの事例展開の復習　実施と評価  10　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験・課題レポート | |
| テキスト/参考書 | 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 精神科を中心とした病院に勤務し、臨床経験を活かした看護過程の展開の概念と事例を用いた看護過程の展開方法について授業を行う | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **基礎看護技術３** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 15時間/8回 | |
| 担当者 | 藤田　美穂 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 日常生活行動を理解し、生活を支える援助の必要性と方法を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　環境整備  ２　　ボディメカニクス  ３　　清潔  ４　　清潔、食事  ５　　食事  ６　　排泄  ７　　睡眠  ８　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）/看護の基本となるもの（日本看護協会出版会） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床経験を活かし、生活を支えるために必要となる対象の理解とアセスメントの視点を深める授業を行う | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **基礎看護技術４** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 30時間/15回 | |
| 担当者 | 高垣　寛子 | |
| 授業形態 | 演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．既習の知識・技術を活用し、対象に必要な生活援助技術を計画できる  ２．対象の反応を見ながら安全に留意し、生活援助技術が実施できる  ３．対象の状況をふまえ、安楽さを追求する姿勢で取り組むことができる  ４．自分の看護実践を客観的に振り返り、課題を述べることができる | |
| 授業計画 | １　　基礎看護技術４の位置づけ、清潔援助技術の科学的根拠  ２　　実習室・更衣室オリエンテーション、ピアチェック  ３　　ベッドメイキング演習、実習準備室  ４　　足浴の援助技術・グループワーク・患者体験・援助計画  ５　　足浴の援助技術  ６　　足浴の援助技術  ７　　足浴の援助技術  ８　　洗髪の援助技術・グループワーク・患者体験・援助計画  ９　　洗髪の援助技術  10　　洗髪の援助技術  11　　全身清拭・寝衣交換の援助・グループワーク・援助計画  12　　全身清拭・寝衣交換の援助・グループワーク・患者体験  13　　全身清拭・寝衣交換の援助  14　　全身清拭・寝衣交換の援助  15　　全身清拭・寝衣交換・基礎技術４のリフレクション | |
| その他の授業の工夫 | DVD視聴 | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 技術評価 | |
| テキスト/参考書 | 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院に勤務し、臨床経験を活かした対象の理解と共に基本的ニーズの充足に向けた生活援助技術の授業を行う | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **基礎看護技術５** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 15時間/7回 | |
| 担当者 | 佐藤　芳恵 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．診察と検査、治療の意義・目的を理解し、診察・検査を受ける患者  への看護技術を習得する。 | |
| 授業計画 | １　診察介助時の看護師の役割  ２　感染予防の原理・原則  ３　検査における看護師の役割  ４　検体採取と取り扱い方法  ５　生体検査の援助（静脈血採血）  ６　呼吸・循環を整える援助 | |
| その他の授業の工夫 | 演習　DVD視聴 | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 記述式終講試験・技術評価 | |
| テキスト/参考書 | 基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での臨床経験を活かし、診察と検査、治療の意義・目的を  理解し、診察・検査をうける患者への看護技術を深める授業を行う | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **基礎看護技術５** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 15時間/7回 | |
| 担当者 | 丸島　実紗 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | （１．診察と検査、治療の意義・目的を理解し、診察・検査をうける患者への看護技術を習得する）  1．与薬の意義・目的を理解し、与薬をうける患者への看護技術を習得  する | |
| 授業計画 | １　　薬物療法における看護師の役割  ２　　薬物療法における安全管理  ３　　基本的な与薬の援助方法  ４　　経口およびその他の与薬方法の援助方法  ５　　注射による与薬方法 | |
| その他の授業の工夫 | 演習　DVD視聴 | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 記述式終講試験・技術試験 | |
| テキスト/参考書 | 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 | 助産師 |
| 内　容 |  |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床経験を活かし、与薬の意義・目的を理解し、与薬をうける患者への看護技術を深める授業を行う | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **臨床看護総論** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 10時間/5回 | |
| 担当者 | 高垣　寛子 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．主要症状の定義とメカニズムを理解し、治療・処置の意義を踏まえ  た看護ケアとその根拠を説明できる  ２．事例を用いて、疾患をもつ人が示す主要な症状を理解し、対象の看  護計画が立案できる。  ３．対象のニーズと状態に応じた援助の方法を判断し適切な説明のもと  実践できる。 | |
| 授業計画 | １　　肝臓の機能（DVD）  ２　　病態関連図、黄疸について  ３　　腹水について  ４　　出血傾向、検査データ  ５　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | なし/看護過程に沿った対症看護（学研） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院における様々な病棟勤務にて幅広い臨床経験を活かし、主要症  状のメカニズムを理解し、看護に活かせる授業を行う | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **臨床看護総論** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 20時間/10回 | |
| 担当者 | 高垣　寛子 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．主要症状の定義とメカニズムを学び、治療・処置の意義を踏まえ  た看護ケアとその根拠を説明できる  ２．事例を用いて、疾患をもつ人が示す主要な症状を理解し、対象の看  護計画が立案できる。  ３．対象のニーズと状態に応じた援助の方法を判断し、適切な説明のも  と実践できる。  ４．情報の解釈や判断が正確であるか、チームの中で連携し確認できる | |
| 授業計画 | １　　複合演習オリエンテーション、事例患者の病態の理解  ２　　事例患者の援助計画立案（個人・グループワーク）  ３　　事例患者の病態、看護の知識確認  ４　　点滴挿入中の患者の生活援助、感染予防、移送の技術  ５　　点滴挿入中の患者の生活援助、感染予防、移送の技術  ６　　場面に応じた点滴挿入中の患者の日常生活援助の演習  ７　　演習  ８　　演習  ９　　演習リフレクション  10　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 | DVD視聴 | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験・技術評価 | |
| テキスト/参考書 | なし/看護過程に沿った対症看護（学研） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での臨床経験を活かし、疾患をもつ人が示す症状の理解を深め、治療と看護について授業を行う | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **基礎看護学実習** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業日数 | ９０時間/１２日 | |
| 担当者 | 専任教員 | |
| 授業形態 | 実習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 病むことにより対象の身体や生活におこる変化を理解し、対象に必要と  される看護を実践する基礎的能力を養う。 | |
| 授業計画 | 実習要項参照 | |
| 評価方法と評価割合 | 実習要項　参照 | |
| テキスト/参考書 | 基礎看護学　実習要項 | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床経験豊富な教員により看護を実践する基礎的能力を養うための授業を行う | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **成人看護学総論** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 30時間/15回 | |
| 担当者 | 青木　由美子　　藤田　美穂 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．成人期にある対象の特徴と生活を理解する  ２．成人保健の動向と対策を理解する  ３．健康レベルに応じた看護方法を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　学習目標、成人とは？  ２　　成人各期の特徴（身体的・心理的・社会的特徴）  ３　　生活習慣病、ヘルスプロモーション  ４　　成人でよく使う理論（エンパワメント・アンドゴラジー・自己効  力感）  ５　　“看護学視点”を用いた演習について  　　　看護過程「肝硬変の患者」練習  ６　　肝硬変患者の看護学視点で考える、２例目の事例演習（腎不全）  　　　腎臓の解剖生理DVD視聴  ７　　腎臓の解剖生理DVDの理解、腎不全の看護学視点演習にとりか  かる  ８　　腎臓の解剖生理DVDの理解、腎不全の看護学視点演習にとりか  かる  ９　　腎臓の解剖生理DVDの理解、腎不全の看護学視点演習にとりか  かる  10　　腎臓の解剖生理DVDの理解、腎不全の看護学視点演習にとりか  かる  11　　腎不全の看護学視点関連図  12　　腎不全の看護学視点関連図  13　　腎不全の看護学視点関連図（口頭試験）  14　　腎不全の看護学視点関連図（口頭試験）  15　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 成人看護学概論（メディカ出版） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 |  |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での勤務等、豊富な臨床経験を活かし、成人期にある対象の特徴と生活や成人保健の動向と対策につて授業を行う | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **成人看護学援助論１　クリティカルケアを必要とする患者の看護** | |
| 開講時期 | １年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | 20時間/10回 | |
| 担当者 | 佐藤　芳恵 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | クリティカルケア看護に必要な基本的知識を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　クリティカルケア看護を必要とする対象  　　　クリティカルケア看護とは  ２　　危険な不整脈が読める  ３　　危険な不整脈が読める  ４　　ペースメーカーを装着した患者の看護  ５　　人工呼吸器を装着した患者の看護  ６　　人工呼吸器を装着した患者の看護  ７　　人工呼吸器を装着した患者の看護  ８　　手術を受ける患者の看護  ９　　手術を受ける患者の看護  10　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 | DVD視聴 | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験70％ | |
| テキスト/参考書 | 成人看護学〔２〕呼吸器（医学書院）・成人看護学〔３〕循環器（医学書院）・臨床外科看護総論（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での臨床経験を活かし、クリティカルケア看護に必要な基本的知識を授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **成人看護学援助論１　がん患者の看護** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 10時間/５回 | |
| 担当者 | 松田　　静 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | がん患者と家族の抱える問題について理解し、患者のQOLを保つために行われる治療法と看護の役割を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　トータルペイン、患者様・ご家族の苦痛を考え、ケアを考える  ２　　苦痛の緩和について  ３　　看護のポイント、苦痛のケア  ４　　事例、発表、グループワーク  ５　　せん妄の患者様への看護を考えよう！ | |
| その他の授業の工夫 | PowerPoint、教科書以外のデータを紹介 | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験30％ | |
| テキスト/参考書 | がん看護学（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 病院や訪問看護ステーションでの臨床経験を活かし、がん患者と家族の抱える問題、患者のQOLを保つために行われる治療法と看護の役割について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **成人看護学援助論２　慢性疾患をもつ患者の看護** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 15時間/8回 | |
| 担当者 | 藤田　美穂 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 慢性疾患が身体的・精神的・社会的側面におよぼす影響を理解し、看護展開に必要な知識を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　成人期とは、生活とは  ２　　成人各期の生活の特徴  ３　　慢性疾患と看護の特徴、病の軌跡  ４　　代謝疾患患者の看護、糖尿病の検査  ５　　病態と検査、食事療法  ６　　運動療法、薬物療法（経口血糖降下薬、インスリン）  ７　　インスリン注射、急性・慢性合併症の対策  ８　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験50％ | |
| テキスト/参考書 | 成人看護学〔６〕内分泌・代謝（医学書院）/糖尿病食事療法のための食品交換票（日本糖尿病協会） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での臨床経験を活かし、慢性疾患が身体的・精神的・社会的側面におよぼす影響と看護展開の視点を授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **成人看護学援助論２　リハビリ期にある患者の看護** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 11時間/6回 | |
| 担当者 | 村松　宏美 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | リハビリ期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、生活再構築を支援する看護実践の基本を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　ICF、リハビリテーションの対象者、廃用症候群とは  ２　　廃用症候群  　　　　全身にどのように起こってくるのか  　　　予防方法  ３　　高次機能障害  　　　　失語症、看護、その他の障害について  ４　　脳神経テスト振り返り  　　　高次機能障害  　　　　失行・注意障害・失認など  ５　　食べる（嚥下）、排泄（排尿・排便）、障害受容  ６　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 | パワーポイントでの可視化 | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 成人看護学〔７〕脳神経(医学書院)・成人看護学〔５〕消化器（医学書院）・成人看護学〔８〕腎・泌尿器(医学書院) | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 脳神経外科での臨床経験と認定看護師としての経験を活かし、中枢神経機能の障害を持つリハビリ期にある患者の理解と生活再構築を支援する看護実践の基本を学ぶ | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **成人看護学援助論２　リハビリ期にある患者の看護** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 4時間/2回 | |
| 担当者 | 藤田　美穂 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | リハビリ期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、生活再構築を支援する看護実践の基本を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　生活の再構築  　　　ストーマ患者の看護  ２　　ストーマ、浣腸法、デモスト  　　　透析について | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 評価方法と評価割合 |  | |
| テキスト/参考書 | 成人看護学〔７〕脳神経(医学書院)・成人看護学〔５〕消化器（医学書院）・成人看護学〔８〕腎・泌尿器(医学書院) | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 大学病院での経験を活かし、人工肛門造設患者、腎不全患者のリハビリ期にある患者の理解と生活再構築を支援する看護実践の基本を学ぶ | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **老年看護学総論** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | 30時間/15回 | |
| 担当者 | 福田　惠子 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．老年期の特徴を学ぶ  ２．老年期の特徴を多様な側面から理解し、老年観をもつことができる  ３．加齢に伴う変化を生活機能の視点から理解し、老年期の生活を支え  る看護を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　老年看護の目標、「老化」と「加齢」  ２　　死生観、四苦  ３　　発達段階、理論と概念  ４　　ストレイト・ストーリー  ５　　ストレイト・ストーリー  ６　　高齢者を視る視点  ７　　フレイルとは、高齢化社会、高齢者の生活を評価する  ８　　ICFモデル、事例を使い、目標志向型思考を考える  ９　　「幸せな時間」DVD鑑賞  10　　高齢者体験演習に向けて、演習項目を仮説から考える  11　　高齢者体験演習  12　　高齢者体験演習  13　　高齢者体験演習  14　　高齢者体験からの学び、目標志向型思考について  15　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 老年看護学（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での臨床経験を活かし、加齢に伴う変化と老年期の生活を支える看護について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **老年看護学援助論１　高齢者の日常生活援助** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 20時間/10回 | |
| 担当者 | 青木　由美子 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 高齢者の自立や社会生活の拡大を目指すための生活機能を整える | |
| 授業計画 | １　　ヘルスアセスメント、ポジショニング  ２　　排泄  ３　　清潔  ４　　食事  ５　　陰部洗浄、オムツ交換、一時的導尿、演習  ６　　陰部洗浄、オムツ交換、一時的導尿、演習  ７　　陰部洗浄、オムツ交換、一時的導尿、演習  ８　　演習振り返り、持続的導尿、講義の総復習  ９　　経管栄養、義歯の装着体験、事例の看護計画  10　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験・課題レポート | |
| テキスト/参考書 | 老年看護学（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での臨床経験を活かし、高齢者の自立や社会生活の拡大を目指すための生活機能を整える看護を授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **老年看護学援助論１　疾患をもつ高齢者への看護** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 6時間/3回 | |
| 担当者 | 高松　亜季子 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 高齢者に特徴的な疾患の病態生理を加齢減少との関係でとらえ、症状や診断・治療、看護ケアの要点を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　認知症の病態・治療・看護  ２　　認知症の方とのコミュニケーション  ３　　認知症の方とのコミュニケーション、環境調整、ケアの実際 | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 老年看護学（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床経験とともに、認知症看護認定看護師の経験を活かし、認知症高齢  者の看護を授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **老年看護学援助論１　疾患をもつ高齢者への看護** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | ４時間/２回 | |
| 担当者 | 藤田　美穂 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 高齢者に特徴的な疾患の病態生理を加齢減少との関係でとらえ、症状や診断・治療、看護ケアの要点を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　パーキンソン病  　　　　疾患、薬物動態、パーキンソン症候群、症状  ２　　パーキンソン病  　　　　薬物療法、運動療法、動画 | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 老年看護学（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での臨床経験を活かし、疾患を持つ高齢者の看護を授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **老年看護学援助論２　老年期に発症しやすい健康障害** | |
| 開講時期 | ２年 | |
| 授業時間/授業回数 | 1５時間/８回 | |
| 担当者 | 山岸　信之 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 老年期に発症しやすい認知機能の障害と看護を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　高齢者のうつ、せん妄  ２　　四大認知症  ３　　認知症の診断・治療・ケア  ４　　心不全、慢性閉塞性肺疾患、糖尿病、パーキンソン病  ５　　インフルエンザ、肺炎、骨粗鬆症、骨折  ６　　うつ病、せん妄、認知症、心不全、COPDなど授業のまとめ  ７　　認知症、パーキンソン病、肺炎、骨粗髪症、骨折など授業のまとめ  ８　　終講試験 | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 老年看護学（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 認定内科医の臨床経験、精神科医の臨床経験を活かし、老年期に発症しやすい認知機能の障害と看護について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **老年看護学援助論２　高齢者への支援** | |
| 開講時期 | ２年 | |
| 授業時間/授業回数 | 1２時間/６回 | |
| 担当者 | 岡本　好弘 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 高齢者とその家族を支えるｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの社会資源について理解する | |
| 授業計画 | １　　高齢者のイメージ・ポジティブ面について  ２　　高齢者の発達課題・喪失体験  ３　　身体拘束について  ４　　認知症  ５　　認知症  ６　　終講試験 | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 老年看護学（医学書院）/国民衛生の動向（厚生統計協会） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 認知症疾患治療病棟での臨床経験を活かし、高齢者の理解と支援につい  て授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **老年看護学援助論２　高齢者への支援** | |
| 開講時期 | ２年 | |
| 授業時間/授業回数 | ３時間/２回 | |
| 担当者 | 福田　惠子 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 高齢者とその家族を支えるｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの社会資源について理解する | |
| 授業計画 | １　　臨地実習へ向けたケアマネジメントの実際  ２　　臨地実習へ向けたケアマネジメントの実際 | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 老年看護学（医学書院）/国民衛生の動向（厚生統計協会） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での臨床経験を活かし、高齢者とその家族を支えるケアマネジメントの社会資源について授業する | |
| 科目名 | **小児看護学総論　小児看護学総論１** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | ２０時間/１０回 | |
| 担当者 | 谷口　　明 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 健康を障害された子どもと家族を理解し、疾患の症状・検査・治療・処置について学ぶ | |
| 授業計画 | １　　小児生下時、出生前診断（NIPT）、染色体異常(ダウン症等)  ２　　新生児の疾患（分娩損傷、新生児仮死、新生児黄疸、メレナ、  GBS、RDS等）  ３　　先天性代謝異常症（新生児マススクリーニング検査、タンデムマス法）、糖尿病（Ⅰ型）、アセトン血性嘔吐症、内分泌疾患、食物アレルギー発症予防  ４　　気管支喘息、感染症（ウイルスと細菌の違い）、突発性発疹、麻  　　　疹  ５　　ウイルス感染症（修飾麻疹、先天性風疹症候群、水痘・帯状疱疹、流行性耳下腺炎、単純ヘルペスウイルス、伝染性紅斑、手足口病、ヘルパンギーナ、インフルエンザ）  ６　　細菌感染症（百日咳、４混ワクチン、ブドウ球菌感染症、溶連菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、細菌性腸炎）  ７　　胃腸炎、敗血症、髄膜炎、結核、上気道炎、下気道炎（肺炎）、  　　　川崎病、先天性心疾患（左右短絡、右左短絡）  ８　　心筋炎、O.D、舌小帯短縮症、幽門狭窄、腸重積、虫垂炎、過敏性腸炎、胆道閉鎖、HB母子感染予防、鉄欠乏性貧血、球状赤血球、血友病A・B、ITP、血管性紫斑病（IgA血管炎）  ９　　てんかん、熱性ケイレン、白血病、リンパ腫、急性糸球体腎炎、  IｇA腎炎、ネフローゼ症候群、起立性蛋白尿、尿路感染症  10　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 | てんかん発作のビデオを見せたり、症状を真似て見せている | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験70％ | |
| テキスト/参考書 | 小児看護学〔２〕小児臨床看護各論（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師　研修医の指導 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 小児科医としての臨床経験を活かし、健康を障害された子どもと家族、疾患の症状・検査・治療・処置について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **小児看護学総論　小児看護学総論２** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | １０時間/５回 | |
| 担当者 | 市山　喜代美 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．小児期にある対象を理解する  ２．小児期の健康問題を理解する  ３．小児保健の動向と対策を理解する  ４．小児看護の役割と機能を理解する | |
| 授業計画 | １　　小児看護の対象：対象の年齢（第二次性徴の進行も含む）  　　　　　　　　　　　成長発達途上の意味・発達段階に応じた援助と  　　　　　　　　　　　は子どもと家族、取り巻く現代社会  　　　　　　　　　　　成人看護との違い  　　　小児看護の目標と役割  ２　　小児と家族の諸統計（乳幼児突然死症候群とその予防も含む）  ３　　小児看護の変遷  　　　小児看護における倫理：「児童憲章」  　　　　　　　　　　　　　 「子どもの権利に関する条約」  ４　　「日常的な臨床場面での倫理的課題に関する行動指針」  　　　　　　　・医療現場でおこりやすい問題点と看護  　　　　　　　・医療・治療の選択・決定について  　　　　　　　　　　　　　　　　（アドボカシーも含む）  　　　　　　　・子どもへのケアについて  （５つの倫理原則・インフォームドアセントも含む）  ５　　小児看護の課題  　　　小児をめぐる法律と健康増進のための政策と社会制度：  　　　　　「児童福祉法」  　　　　　「児童虐待防止法」　←　子どもの虐待と看護も含む  　　　　　「母子保健法」  　　　　　　　・マス-スクリーニング検査  　　　　　　　・子育て支援　←　「健やか親子21」等  　　　　　　　・子どもに関する各医療費助成 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験30％ | |
| テキスト/参考書 | 小児看護学〔１〕小児看護学概論／小児臨床看護総論（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での内科、外科、小児科での経験を活かし、小児期にある対象の理解と看護を授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **小児看護学援助論１** | |
| 開講時期 | ２年 | |
| 授業時間/授業回数 | ３０時間/１５回 | |
| 担当者 | 市山　喜代美 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．健康を障害された小児とその家族の特徴を理解する  ２．小児におこりやすい健康障害を理解し、小児および家族への看護の方法を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　成長・発達・発育とは、区分、領域、一般的原則、粗大・微細運動、原始反射（新生児の神経系）、発達の時期（各器官/スキャモン）、成熟と学習について  ２　　臨界期について、成長・発達に影響する因子  成長発達の評価（身長・体重測定時のポイント、パーセンタイルの評価を練習、キャッチアップ現象（過去問）、学校健診におけるパーセンタイル曲線）  ３　　発達評価の方法、体格・体型の評価、摂食機能の発達過程  ４　　課題学習  各期の形態、身体生理、感覚、運動、知的、コミュニケーション、情緒面と栄養面についての学習  ５　　課題学習  ６　　課題学習  ７　　課題学習  ８　　「健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護」  　　　　子どもの病気・死の理解  ９　　健康障害に伴う子どものストレスと対処、子どものストレス対処への支援、子どもの健康障害に伴う家族のストレス、病気の子供の家族のストレス対処に対する援助、過去問の紹介  10　　家族の特徴アセスメント、「成長発達表」提出の総評と補充講義  　　　加年齢、新生児の生理的体重減少・生理的黄疸・生理的貧血  　　　過去問実施（小児のアセスメント学習）  11　　アタッチメント理論、コミュニケーション機能の発達、情緒への分化、ハーローの愛着実験  12　　ピアジェ認知理論、エリクソン発達課題  13　　エリクソン発達課題と関わり方、小児期における反抗期（第一、第二、中間）、思春期全体における看護のポイント  14　　こども園実習の記録について、あそびの理論～具体編  15　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 | 0～5歳までの成長発達（栄養を含む）表を各自で作成する | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 小児看護学〔１〕小児看護学概論／小児臨床看護総論（医学書院）  小児看護学〔２〕小児臨床看護各論（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 小児病院での経験を活かし、健康を障害された小児とその家族の特徴と小児におこりやすい健康障害、小児および家族への看護の方法を授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **小児看護学援助論２　発達段階に応じた小児の看護** | |
| 開講時期 | ２年 | |
| 授業時間/授業回数 | １５時間/８回 | |
| 担当者 | 市山　喜代美 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | さまざまな状況にある小児と家族を理解し、看護の方法を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　症状を示す小児の看護  　　　　不機嫌、啼泣、痛み、呼吸困難、痙攣  ２　　症状を示す小児の看護  　　　　痙攣、発熱、脱水  ３　　予防接種（コロナワクチン接種含む）  ４　　予防接種  　　　　最新の定期接種の疾病数等  　　　事故・外傷と看護  　　　　死亡原因の順位、子どもの事故の特徴、発達段階に応じた事故  防止、不慮の事故総論（PTSD含む）、頭部外傷  ５　　事故・外傷と看護  　　　　気道内異物・消化管異物・中毒、溺水、熱傷、熱中症  ６　　救命処置  　　　周手術期の子どもと家族の看護  　　　　小児期の手術の特徴、手術を受ける子どもの反応  　　　　術前の看護（プリパレーション他）  ７　　術後急性期の看護、術後回復期の看護  ８　　痛みへの看護、慢性期・急性期・終末期の看護の特徴とテキスト  より説明 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 小児看護学〔１〕小児看護学概論／小児臨床看護総論（医学書院）  小児看護学〔２〕小児臨床看護各論（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 小児病院での経験を活かし、さまざまな状況にある小児と家族の理解と看護の方法を授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **小児看護学援助論２　検査・治療・処置をうける小児の看護** | |
| 開講時期 | １年 | |
| 授業時間/授業回数 | １５時間/８回 | |
| 担当者 | 小林　愛 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 小児看護に必要な基本的看護技術を習得する | |
| 授業計画 | １　　検査・治療・処置をうける小児の看護  ２　　小児看護技術　与薬、輸液管理  ３　　小児看護技術　子どもの力を引き出す看護  ４　　検査・治療・処置をうける小児の看護  ５　　検査・治療・処置をうける小児の看護  　　　　扁桃摘出術、斜視の手術を受ける児の看護  ６　　小児看護学実習について  ７　　小児看護学実習内容の説明  ８　　終講レポート | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 小児看護学〔１〕小児看護学概論／小児臨床看護総論（医学書院）  小児看護学〔２〕小児臨床看護各論（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での臨床経験を活かし、小児看護に必要な基本的看護技術を授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **母性看護学総論　母性看護学総論１** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | １０時間/５回 | |
| 担当者 | 丸島　実紗 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 女性生殖器の特徴をライフステージ別に発達課題とともに捉え、その時期に起こりやすい疾患と治療・検査・処置について学ぶ。 | |
| 授業計画 | １　　女性生殖器の解剖と性周期  ２　　思春期特有の起こりやすい疾患、検査、治療  ３　　成人期特有の起こりやすい疾患、検査、治療  ４　　不妊症・不育症についての検査、治療  ５　　更年期特有の起こりやすい疾患、検査、治療 | |
| その他の授業の工夫 | 画像や動画を用いて可視化して理解を深める | |
| 時間外学修 | なし | |
| 評価方法と評価割合 | なし | |
| テキスト/参考書 | 成人看護学〔９〕女性生殖器（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 助産師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 産婦人科での臨床経験を活かし、婦人科を取り巻く動向についてライフステージ別に授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **母性看護学総論　母性看護学総論２** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | ２０時間/１０回 | |
| 担当者 | 青山　桂子 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．母性の概念、意義および母性の特徴について学び、母性看護の特性とあり方を考える  ２．母性看護の動向について理解する  ３．看護者として必要な性と生殖に関する知識をもとに、生きる力を育むために必要なことは何かを考える | |
| 授業計画 | １　　母性の概念  　　　　　　親になること  　　　母子関係  　　　　　　母子相互作用  ２　　リプロダクティブヘルス　ライツ  　　　母性看護の実践を支える概念  ３　　母子保健統計からみた動向  　　　対象をとりまく環境  ４　　母性看護の対象理解  　　　　　①女性のライフサイクル：性周期  　　　　　②性分化のメカニズム・性意識の発達  ５　　母子保健に関する組織と法律  ６　　母子保健施策  　　　女性のライフステージ各期における看護  ７　　女性のライフステージ各期における看護  　　　　　　グループワーク  ８　　女性のライフステージ各期における看護  　　　　　　グループワーク発表  ９　　母性看護における倫理  　　　　　　母性看護における健康教育  10　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 母性看護学〔１〕母性看護学概論（医学書院）・母性看護学〔２〕母性看護学各論（医学書院）/国民衛生の動向（厚生統計協会） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 助産師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 助産師としての臨床経験、母子保健活動を活かし、母性の特徴、母性看護学を取り巻く動向について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **母性看護学援助論１** | |
| 開講時期 | ２年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | ３０時間/１５回 | |
| 担当者 | 齊藤　眞智子 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．子どもを生み育てるにあたり生じる問題を理解し、母性看護を実践するうえで必要な倫理について考える  ２．妊娠・分娩の生理的な経過を理解し、正常に経過させるための援助方法を学ぶ  ３．妊婦・散布の看護に必要な特有の技術を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　第１章　子どもを産み育てることと、その看護を学ぶにあたって  　　　　自己紹介、自己肯定感についての発表・感想  ２　　第２章　出生前からのリプロダクティスヘルスケア  　　　　出生前検査、不妊治療を受ける女性の看護についての感想  ３　　第３章　妊娠期における看護  　　　　Ａ．妊娠期の身体的特性  　　　　Ｂ．妊娠期の心理・社会的特性  ４　　　Ｃ．妊婦と胎児のアセスメント  　　　　　腹囲、子宮底、レオポルド触診演習  ５　　　Ｄ．妊婦と家族の看護  　　　　　食生活についてのアセスメント  ６　　　Ｄ．妊婦と家族の看護  　　　　　マイナートラブル、着帯の実演  ７　　第４章　分娩期における看護  　　　　Ａ．分娩の要素　ファントーム使用にて説明  ８　　　Ｂ．分娩の経過  　　　　Ｃ．産婦・胎児・家族のアセスメント  ９　　　Ｄ．産婦と家族の看護  　　　　Ｅ．分娩期の看護の実際  10　　分娩期の看護の実際を実施  11　　第５章　新生児における看護  　　　　Ａ．新生児の生理  12　　新生児のアセスメント  13　　沐浴のDVD鑑賞、沐浴演習  14　　新生児  15　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 | グループワークや学内演習が可能なら実施していきたい | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 母性看護学〔１〕母性看護学概論（医学書院）  母性看護学〔２〕母性看護学各論（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 助産師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 助産師としての臨床経験、母子保健活動を活かし母性看護の特徴と妊娠期、分娩期における看護について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **母性看護学援助論２** | |
| 開講時期 | ２年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | １０時間/5回 | |
| 担当者 | 丸島　美紗 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．産褥の生理的な経過とその診断、検査を理解し正常に経過させるための援助方法を学ぶ  ２．新生児の生理的な経過とその診断、検査を理解し、正常に発育させるための援助方法を学ぶ  ３．褥婦と新生児の看護に必要な特有の技術を修得する  ４．異常な経過をたどる妊産褥婦の看護を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　実習前ガイダンスの目的・実習の概要  グループセッションでの「実習で学びたいこと」話し合い  ２　　グループセッションでの意見を元に、妊娠期・分娩期のガイダン  　　　ス  ３　　実習要項、グループセッションでの意見を元に、産褥期のガイダ  ンス  ４　　新生児ガイダンス  ５　　地域で生活する母子及び家庭の支援についての理解  　　　クリティカルパス | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | なし | |
| テキスト/参考書 | 母性看護学〔１〕母性看護学概論（医学書院）  母性看護学〔２〕母性看護学各論（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 助産師としての臨床経験、母子保健活動を活かし母性看護の特徴と妊娠期、分娩期における看護について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **母性看護学援助論２** | |
| 開講時期 | ２年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | ２０時間/１０回 | |
| 担当者 | 齊藤　眞智子 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．産褥の生理的な経過とその診断、検査を理解し正常に経過させるための援助方法を学ぶ  ２．新生児の生理的な経過とその診断、検査を理解し、正常に発育させるための援助方法を学ぶ  ３．褥婦と新生児の看護に必要な特有の技術を修得する  ４．異常な経過をたどる妊産褥婦の看護を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　新生児、産褥  ２　　産褥における看護、産褥アセスメント  ３　　ハイリスク妊娠  ４　　妊娠の異常と看護  ５　　分娩の異常と看護、胎児の異常など  ６　　分娩の異常と看護、産科処置と手術、異常のある産婦の看護  ７　　新生児の異常と看護  　　　　A　新生児仮死　　B　分娩外傷　　C　低出生体重児  ８　　新生児の異常と看護  　　　　D　高ビリルビン血症  　　　産褥期の異常と看護  ９　　精神障害合併妊婦の看護  10　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 母性看護学〔１〕母性看護学概論（医学書院）  母性看護学〔２〕母性看護学各論（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 助産師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 助産師としての臨床経験、母子保健活動を活かし、産褥期における看護、新生児の看護、育児支援について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **精神看護学総論　精神看護学総論１** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | １５時間/８回 | |
| 担当者 | 澤　　　滋 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．精神保健、医療の現場を理解し、今後の精神医療のあり方を述べることができる  ２．地域精神保健福祉活動について説明できる | |
| 授業計画 | １　　精神障害と治療の歴史、社会のなかの精神障害  ２　　社会のなかの精神障害  日本における精神医学・精神医療の流れ  ３　　「夜明け前」鑑賞  ４　　社会のなかの精神障害  　　　　精神障害と法制度  ５　　地域におけるケアの支援  ６　　地域におけるケアの方法と実際  ７　　授業プリントの振り返り、テストポイント対策  ８　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験50％ | |
| テキスト/参考書 | 精神看護の基礎（医学書院）・精神看護の展開（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 精神科医としての臨床経験を活かし、精神保健、医療の現状と今後のあり方を授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **精神看護学総論　精神看護学総論２** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | １５時間/８回 | |
| 担当者 | 安部　由美子 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．精神看護学の目的、対象、看護の機能と役割を説明できる  ２．心の発達と心の健康を理解し、心の健康を保持・増進するための看護について説明できる | |
| 授業計画 | １　　精神看護学の考え方、心の健康、心の構造  ２　　心の構造、心の機能、心の発達、防衛機制  ３　　エリクソンの発達課題  ４　　危機  ５　　危機理論；フィンク、コーン、キューブラロス  ６　　アギュララ・メズイックの危機理論、ストレス  ７　　看護師のストレス、ストレスマネジメント  ８　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験50％ | |
| テキスト/参考書 | 精神看護の基礎（医学書院）・精神看護の展開（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 精神科病院での臨床経験を活かし、精神看護学の目的、対象、看護の機能と役割について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **精神看護学援助論１　精神障害の理解** | |
| 開講時期 | ２年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | １５時間/８回 | |
| 担当者 | 澤　　　滋 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 精神に障害をもつ対象の精神症状や精神状態・検査・治療について説明できる | |
| 授業計画 | １　　第５章　精神科で出会う人々  症状・疾患と病い  ２　　第５章　精神科で出会う人々  　　　　統合失調症の症状・病型  ３　　第５章　精神科で出会う人々  　　　　気分障害、神経症性障害、不安障害  ４　　第５章　精神科で出会う人々  　　　　生理的障害、行動症候群、パーソナリティ障害、器質性精神障害、認知症  ５　　第５章　精神科で出会う人々  　　　　精神作用物質使用による精神および行動の障害、てんかん、  　　　　神経発達障害群  ６　　第６章　精神科での治療  　　　　薬物療法・電気けいれん療法、精神療法  ７　　今までの総復習  ８　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験50％ | |
| テキスト/参考書 | 精神看護の基礎（医学書院）・精神看護の展開（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 医師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 精神科医としての臨床経験を活かし、精神に障害をもつ対象の精神症状や精神状態・検査・治療について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **精神看護学援助論１　精神の健康障害時の看護** | |
| 開講時期 | ２年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | ４時間/２回 | |
| 担当者 | 安部　由美子 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 精神に障害をもつ対象の理解の方法が説明できる | |
| 授業計画 | １　　精神障害者へのイメージ、偏見について考える  ２　　病むきっかけになったライフイベントやストレスに対応する力  　　　「生きにくさ」の理解 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 精神看護の基礎（医学書院）・精神看護の展開（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 精神科病院での臨床経験を活かし、精神に障害をもつ対象の看護の基本を授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **精神看護学援助論１　精神の健康障害時の看護** | |
| 開講時期 | ２年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | １１時間/６回 | |
| 担当者 | 新海　大祐 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 患者－看護師関係を治療的援助関係に発展させていく必要性を説明できる | |
| 授業計画 | １　　自己開示、偏見について  ２　　精神医療の歴史、過去、現在、未来  ３　　入院治療の意味  ４　　コミュニケーションの実際・距離感について  ５　　精神科看護の実際  ６　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 精神看護の基礎（医学書院）・精神看護の展開（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 精神科病院での臨床経験を活かし、精神に障害をもつ対象の看護の基本を授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **精神看護学援助論２** | |
| 開講時期 | ２年 | |
| 授業時間/授業回数 | 30時間/15回 | |
| 担当者 | 安部　由美子 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 精神に障害をもつ対象とその家族に対する看護の方法を説明できる | |
| 授業計画 | １　　統合失調症の患者の症状アセスメント」  ２　　統合失調症の患者の精神状態・問題行動と援助方法  ３　　統合失調症の急性期の看護  ４　　統合失調症の慢性期の看護  ５　　統合失調症の社会復帰期の看護  ６　　気分障害の患者の症状アセスメント  ７　　気分障害の患者の精神状態・問題行動と援助方法  ８　　アルコール症の患者の症状アセスメントと援助方法  ９　　心身症・神経症の症状アセスメントと援助方法  10　　摂食障害の患者の症状アセスメントと援助方法  11　　パーソナリティ障害の患者の症状アセスメント援助方法  12　　服薬指導の技術  13　　ＳＳＴ　　心理教育　　　グループアプローチ  14　　レクリェーション療法　　作業療法  15　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験50％ | |
| テキスト/参考書 | 精神看護の基礎（医学書院）・精神看護の展開（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 精神科病院での臨床経験を活かし、精神に障害をもつ対象とその家族に対する看護について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **成人看護学実習** | |
| 開講時期 | ２年 | |
| 授業時間/授業日数 | ９０時間/１２日 | |
| 担当者 | 専任教員 | |
| 授業形態 | 実習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．成人期にある対象の健康レベルやライフサイクルの視点から健康上の課題を把握することができる  ２．対象および家族に、セルフケアができるように援助できる  ３．継続的な視点に立って生活を整えるための援助を考えることができる | |
| 授業計画 | 実習要項参照 | |
| 評価方法と評価割合 | 実習要項　参照 | |
| テキスト/参考書 | 成人看護学　実習要項 | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 豊富な臨床経験を活かし、成人期にある対象の健康レベルやライフサイクルの視点から健康上の課題について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **老年看護学実習　老年看護学実習Ⅰ** | |
| 開講時期 | ２年 | |
| 授業時間/授業日数 | ３０時間/４日 | |
| 担当者 | 専任教員 | |
| 授業形態 | 実習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．老人デイケアの役割・機能がわかる  ２．残存機能を生かした支援について考えることができる  ３．利用者および家族の思いについて考えることができる | |
| 授業計画 | 実習要項参照 | |
| 評価方法と評価割合 | 実習要項　参照 | |
| テキスト/参考書 | 老年看護学　実習要項 | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 豊富な臨床経験を活かし、老年期にある対象の残存機能を活かした支援について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **老年看護学実習　老年看護学実習Ⅱ** | |
| 開講時期 | ２年 | |
| 授業時間/授業日数 | ６０時間/８日 | |
| 担当者 | 専任教員 | |
| 授業形態 | 実習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 高齢者の生活機能をアセスメントし、持てる力を最大限活用した援助を  考えることができる | |
| 授業計画 | 実習要項参照 | |
| 評価方法と評価割合 | 実習要項参照 | |
| テキスト/参考書 | 老年看護学　実習要項 | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 豊富な臨床経験を活かし、老年期にある対象の生活機能のアセスメント、持てる力を最大限活用した援助について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **小児看護学実習　保育所実習** | |
| 開講時期 | ２年 | |
| 授業時間/授業日数 | ３０時間/４日 | |
| 担当者 | 専任教員 | |
| 授業形態 | 実習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．小児期にある対象の成長発達を理解する  ２．成長発達に応じた日常生活の援助がわかる | |
| 授業計画 | 実習要項参照 | |
| 評価方法と評価割合 | 実習要項　参照 | |
| テキスト/参考書 | 小児看護学　実習要項 | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 豊富な臨床経験を活かし、小児期にある対象の成長発達に応じた日常生活の援助について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **小児看護学実習　小児科病棟実習** | |
| 開講時期 | ２年 | |
| 授業時間/授業日数 | ６０時間/８日 | |
| 担当者 | 専任教員 | |
| 授業形態 | 実習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 入院、健康障害、治療が小児とその家族に及ぼす影響を理解し、必要な  援助がわかる | |
| 評価方法と評価割合 | 実習要項　参照 | |
| テキスト/参考書 | 小児看護学　実習要項 | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 豊富な臨床経験を活かし、小児の入院、健康障害、治療が小児とその家族に及ぼす影響と、必要な援助について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **母性看護学実習　育児支援実習** | |
| 開講時期 | ２年 | |
| 授業時間/授業日数 | ３０時間/４日 | |
| 担当者 | 専任教員 | |
| 授業形態 | 実習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．新しい家族を迎える妊婦や家族の役割獲得の準備について理解する  ２．子育て期にある対象のニーズに対応した支援がわかる | |
| 授業計画 | 実習要項参照 | |
| 評価方法と評価割合 | 実習要項　参照 | |
| テキスト/参考書 | 母性看護学　実習要項 | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 助産師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 豊富な臨床経験を活かし、子育て期にある対象のニーズに対応した支援について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **母性看護学実習　産科病棟実習** | |
| 開講時期 | ２年 | |
| 授業時間/授業日数 | ６０時間/８日 | |
| 担当者 | 専任教員 | |
| 授業形態 | 実習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．妊娠・分娩・産褥各期にある対象および新生児の身体的、精神・社会的特徴が理解できる  ２．妊娠・分娩・産褥各期にある母子および新生児の健康増進に向けた日常生活援助の方法がわかる  ３．産褥期にある母子と家族の適応過程を知り、必要な保健指導や社会資源がわかる  ４．新しい生命の誕生に関わり、自己の生命観、親役割、次世代の育成について考える | |
| 授業計画 | 実習要項参照 | |
| 評価方法と評価割合 | 実習要項　参照 | |
| テキスト/参考書 | 母性看護学　実習要項 | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 助産師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 豊富な臨床経験を活かし、妊娠・分娩・産褥各期にある対象の特徴と看護、新生児の特徴と援助について授業する | |
| 科目名 | **精神看護学実習** | |
| 開講時期 | ２年 | |
| 授業時間/授業日数 | ９０時間/１２日 | |
| 担当者 | 専任教員 | |
| 授業形態 | 実習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．精神の障害をもつ対象を理解する  ２．患者―看護師関係成立過程の看護師の役割および治療的かかわりの技法を理解し、展開する  ３．障害によって生じる生活のしづらさ、困難さを理解しかかわり方を考える  ４．自己の対人関係の特徴を知ることにより、自己理解を深める | |
| 授業計画 | 実習要項参照 | |
| 評価方法と評価割合 | 実習要項　参照 | |
| テキスト/参考書 | 精神看護学　実習要項 | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 豊富な臨床経験を活かし、精神の障害をもつ対象の理解と自己理解について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **在宅看護論総論** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | １０時間/５回 | |
| 担当者 | 河井　眞知子 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．地域で療養生活をおくる人とその家族を理解し、在宅看護の特徴を理解する  ２．地域で療養生活をおくる人とその家族の生活を支えるための社会資源の活用の実際と連携・協働の重要性を学ぶ  ３．訪問看護活動の概念・制度・看護者の役割を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　訪問看護の対象者、訪問看護制度の創設と経緯、介護保険制度、  　　　訪問看護制度  ２　　１）在宅における連携の特徴  　　　２）医師との連携  ３　　療養上のリスクマネジメント、災害時の在宅看護、在宅看護にお  ける権利保障  ４　　訪問看護ステーションに関する規定  　　　運営基準、人員基準、具体的にどこへ申請するか等  ５　　訪問看護ステーションのパンフレット作り | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験・レポート | |
| テキスト/参考書 | 在宅看護論（医学書院）/国民衛生の動向（厚生統計協会） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師　ケアマネージャー |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での臨床経験、ケアマネージャーとしての経験を活かし、地域で療養生活をおくる人とその家族の生活を支えるための社会資源の活用の実際と連携・協働について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **在宅看護論総論** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | ２０時間/１０回 | |
| 担当者 | 石川　美佐子 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．在宅看護を学ぶ背景が説明できる  ２．地域包括ケアシステムが必要とされる背景が説明できる  ３．地域で療養生活をおくる人とその家族を理解し、在宅看護の特徴を述べることができる  ４．地域で療養生活をおくる人とその家族の生活を支えるための社会資源の活用の実際と連携・協働の重要性を説明できる  ５．訪問看護活動の概念・制度・看護者の役割を述べることができる | |
| 授業計画 | １生活と暮らし  ２在宅看護論を学ぶ背景  ３在宅看護の基盤と対象の特徴  ４地域包括ケアシステムと看護職の役割  ５地域の捉え方  ６在宅療養者と家族の支援 | |
| その他の授業の工夫 | ディベート、オリエンテーリングなどを組み入れ主体的に学習できる | |
| 時間外学修 | 各自の学習テーマに沿って学習する | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験・レポート | |
| テキスト/参考書 | 在宅看護論（医学書院）/国民衛生の動向（厚生統計協会） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師　ケアマネジャー |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での訪問等、臨床経験や地域での福祉活動の経験を活かし、地域で療養生活をおくる人とその家族の生活を支えるための支援にについて授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **在宅看護論援助論１　在宅療養者の看護** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | １４時間/７回 | |
| 担当者 | 河井　眞知子 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．看護の対象である人間の理解を深め、健康・環境について考える  ２．社会における看護の位置づけを明確にし、求められる役割を考える  ３．看護観の確立のための基盤として、先人の看護論を学ぶ  ４．看護実践者として必要な倫理的判断力を学ぶ | |
| 授業計画 | １　　在宅患者の環境、在宅患者の援助内容  ２　　在宅酸素療法の種類や特徴  ３　　CPAP、NPPV、人工呼吸器  ４　　スクイジング実技演習  ５　　褥瘡の予防、褥瘡について、褥瘡看護のポイント  ６　　手浴・足浴の実技  　　　　拘縮した手指の伸ばし方のテクニック  　　　在宅での入浴について  ７　　食のアセスメント  　　　　栄養食品の説明、種類・形状の確認、試食  　　　社会資源の選び方 | |
| その他の授業の工夫 | 演習を行いながら実践力を高める | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験・レポート | |
| テキスト/参考書 | 在宅看護論（医学書院）・基礎看護技術Ⅱ（医学書院）・老年看護学（医学書院）/国民衛生の動向（厚生統計協会） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師　ケアマネジャー |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での臨床経験、ケアマネジャーとしての経験を活かし、在宅  看護における日常生活の援助、医療処置管理の支援・看護について授業  する。 | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **在宅看護論援助論１　在宅療養者の看護** | |
| 開講時期 | １年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | １６時間/８回 | |
| 担当者 | 石川　美佐子 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．地域で療養生活を送る看護の対象である人間の理解を深め、健康・環境について説明できる  ２．社会における看護の位置づけと看護者に求められる役割を説明できる  ３．看護実践者として必要な倫理的判断力を身に付ける | |
| 授業計画 | １．地域で療養生活を送る対象の特徴  ２．地域で療養生活を送る対象のアセスメント  ３．地域で療養生活を送る対象の取り巻く環境と強みを活かした支援の検討  ４．地域で療養生活を送る対象の取り巻く環境と強みを活かした支援の実践  ５．在宅看護の特徴と訪問看護の役割 | |
| その他の授業の工夫 | 事例に対して看護者の視点を深める訪問看護演習を行うことで実践力が高まる | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験・レポート | |
| テキスト/参考書 | 在宅看護論（医学書院）・基礎看護技術Ⅱ（医学書院）・老年看護学（医学書院）/国民衛生の動向（厚生統計協会）その他資料 | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師　ケアマネジャー |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での訪問等、臨床経験や地域での福祉活動の経験を活かし、地域で療養生活をおくる人とその家族の生活を支えるための看護師の機能と役割、連携について演習を通して授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **在宅看護論援助論２　訪問看護の実際** | |
| 開講時期 | ２年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | ２時間/１回 | |
| 担当者 | 藤井　修 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．在宅療養を支える訪問看護の実践を学ぶ | |
| 授業計画 | １．接遇とは  　　実習の心構え | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | なし | |
| テキスト/参考書 | 在宅看護論（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 訪問看護ステーションでの臨床経験を活かし、在宅療養を支える訪問看護の実践を授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **在宅看護論援助論２　訪問看護の実際** | |
| 開講時期 | ２年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | ８時間/４回 | |
| 担当者 | 中村　恵子 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | 在宅療養を支える訪問看護の実践を学ぶ | |
| 授業計画 | １．介護保険制度の始まり  ２．他業種との兼ね合い  ３．“人の話を聞く”  ４．本の中の事例 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | なし | |
| テキスト/参考書 | 在宅看護論（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 訪問看護ステーションでの臨床経験を活かし、在宅療養を支える訪問看護の実践を授業する | |
| 科目名 | **在宅看護論援助論２　ケアマネジメントの実際** | |
| 開講時期 | 2年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | ６時間/３回 | |
| 担当者 | 河井　眞知子 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．在宅ケアシステムの中の在宅看護の役割を学ぶ  ２．ケアチームの連携・協働を学ぶ  ３．地域におけるケアマネジメントを学ぶ | |
| 授業計画 | １．介護保険のあれこれ  ２．ケアプラン作成基本の基  ３．事例をもとにケアプランの作成 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | なし | |
| テキスト/参考書 | 在宅看護論（医学書院）・社会福祉と社会保障（メディカ出版）/  国民衛生の動向（厚生統計協会） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師　ケアマネジャー |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 |  |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での臨床経験、ケアマネジャーとしての経験を活かし、ケアマネジメントの実際を授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **在宅看護論援助論２　ケアマネジメントの実際** | |
| 開講時期 | 2年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | ８時間/４回 | |
| 担当者 | 金子　幸栄 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．在宅ケアシステムの中の在宅看護の役割を学ぶ  ２．ケアチームの連携・協働を学ぶ  ３．地域におけるケアマネジメントを学ぶ | |
| 授業計画 | １．地域における包括支援事業・地域包括支援センターの取り組み  　　　「総合相談」  ２．「包括的継続的ケアマネジメント」について  地域包括システムのしくみ  ３．「介護予防ケアマネジメント」について  ４．「権利擁護」について | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | なし | |
| テキスト/参考書 | 在宅看護論（医学書院）・社会福祉と社会保障（メディカ出版）/ | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 社会福祉士 |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 |  |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 地域包括支援センターでの経験を活かし、地域における包括的支援事業の実際を授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **在宅看護論援助論２　ケアマネジメントの実際** | |
| 開講時期 | １年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | ６時間/３回 | |
| 担当者 | 石川　美佐子 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．在宅ケアシステムの中の在宅看護の役割が説明できる  ２．ケアチームの連携・協働が説明できる  ３．地域におけるケアマネジメントが説明できる  ４．実践に必要となる接遇、態度が身に付く | |
| 授業計画 | １．在宅看護論援助論２の概要  ２．訪問看護倫理要綱  ３．実践にあたり留意すべきこと  　　　　心構え・態度・行動・学び方  ４．実習に向けた準備  　　　　実習要項確認、誓約書について | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 在宅看護論（医学書院）・社会福祉と社会保障（メディカ出版）/  国民衛生の動向（厚生統計協会）実習要項 | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師　ケアマネジャー |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での訪問等、臨床経験や地域での福祉活動の経験を活かし、地域で療養生活をおくる人とその家族の生活を支えるための支援について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **看護研究** | |
| 開講時期 | ２年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | ６時間/３回 | |
| 担当者 | 宮田　さおり | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．論文をクリティークすることで、科学的な論文の書き方の基礎を理解する  ２．研究のステップを踏み、実施した看護を科学的に分析し、論文形式にまとめることができる | |
| 授業計画 | １　　研究計画書の書き方・データ収集  ２　　質的研究の分析  　　　　グラウンデッドセオリーアプローチ・KJ法  ３　　成果を発表する・論文のまとめ方 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 看護研究論文 | |
| テキスト/参考書 | なし/さぁ！事例研究に挑戦しよう（日本メディカルセンター） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師、保健師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 看護師、保健師としての臨床経験と大学での研究を活かし、科学的な論文の書き方の基礎を授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **看護研究** | |
| 開講時期 | ２年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | ２４時間/１２回 | |
| 担当者 | 安部　由美子 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．論文をクリティークすることで、科学的な論文の書き方の基礎を理解する  ２．研究のステップを踏み、実施した看護を科学的に分析し、論文形式にまとめることができる | |
| 授業計画 | １　　看護の実際、結果を振り返り、対象理解や看護実践の考察を行う  ２　　看護研究の評価視点、発表の聴講の視点、論文に適した表現方法  ３　　看護研究大会準備  ４　　看護研究大会の運営・発表  ５　　看護研究大会の運営・発表  ６　　看護研究大会の運営・発表  ７　　看護研究大会の運営・発表  ８　　看護研究大会の運営・発表  ９　　看護研究大会の運営・発表  10　　関西看護学生看護研究大会  11　　関西看護学生看護研究大会  12　　自己の看護観を深め論理的に表現する | |
| その他の授業の工夫 | 小グループ制の指導体制 | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 看護研究論文 | |
| テキスト/参考書 | なし/さぁ！事例研究に挑戦しよう（日本メディカルセンター） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床での看護研究の経験を活かし、論文のまとめ方と発表について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **看護管理** | |
| 開講時期 | ２年 | |
| 授業時間/授業回数 | ２２時間/１１回 | |
| 担当者 | 眞鍋　信一 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．看護の独自性や専門性を発揮し、合目的な行動がとれるために必要な看護管理について学ぶ  ２．看護管理部門の目的と基本的役割について理解する  ３．看護管理の今日的課題を理解する | |
| 授業計画 | １　　医療の質が問われる時代になった  ２　　看護ケアのマネジメント  ３　　看護サービスのマネジメント  ４　　看護サービスのマネジメント  ５　　組織について、DVD視聴  ６　　組織、集団について  ７　　チーム医療  ８　　チーム医療、看護の専門職について  ９　　DVD視聴  10　　看護管理まとめ  11　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験 | |
| テキスト/参考書 | 看護学概論（メディカ出版）・看護管理（医学書院）/よくわかる看護者の倫理綱領（照林社） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 臨床経験とともに、看護部長としての経験を活かし、看護とマネジメントについて授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **看護管理** | |
| 開講時期 | ２年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | ８時間/４回 | |
| 担当者 | 大城　芳讓 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．災害看護の基本を理解する  ２．国際保健・看護について理解する | |
| 授業計画 | １　　災害とは  ２　　災害看護とは  ３　　災害関連疾患  　　　メンタルヘルス　災害と心の回復の過程  　　　ＰＴＳＤ　　肺血栓症　低線量被曝  ４　　災害支援の実際  　　　安全と安心に向けた支援  　　　トリアージ  　　　DPATとDMAT | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | なし | |
| テキスト/参考書 | なし | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 精神科病院での経験とDPATとしての経験を活かし、災害医療と災害看護について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **医療安全** | |
| 開講時期 | ２年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | １４時間/７回 | |
| 担当者 | 井上　智美 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．ヒューマンエラーと人間の基本的特性との関係について理解する  ２．医療機関における安全対策について理解する  ３．看護における安全対策について理解する  ４．医療事故後の対応について理解する | |
| 授業計画 | １　　医療安全の考え方  ２　　医療安全管理者の役割など  ３　　ヒューマンエラー  　　　事故分析の方法  ４　　KYTについて、KYT演習（輸液実施編）  ５　　KYT演習（経管栄養編）、医療事故と法的責任  ６　　労働災害、医療事故調査制度  ７　　終講試験 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験85％ | |
| テキスト/参考書 | なし | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 医療安全対策室での経験を活かし、医療機関、看護、組織における医療安全について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **医療安全** | |
| 開講時期 | ２年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | ２時間/１回 | |
| 担当者 | 牧坂　幸子 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．ヒューマンエラーと人間の基本的特性との関係について理解する  ２．医療機関における安全対策について理解する  ３．看護における安全対策について理解する  ４．医療事故後の対応について理解する | |
| 授業計画 | １　　感染予防について  　　　演習：衛生学的手洗い | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 終講試験15％ | |
| テキスト/参考書 | なし | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 精神科病院での臨床経験を活かし、看護における安全対策について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **医療安全** | |
| 開講時期 | ２年前期 | |
| 授業時間/授業回数 | ４時間/２回 | |
| 担当者 | 辻　　義則 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．ヒューマンエラーと人間の基本的特性との関係について理解する  ２．医療機関における安全対策について理解する  ３．看護における安全対策について理解する  ４．医療事故後の対応について理解する | |
| 授業計画 | １　　放射線の定義  　　　放射線の種類・分類  　　　放射線治療  　　　放射線障害  ２　　放射線における医療安全 | |
| その他の授業の工夫 |  | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | なし | |
| テキスト/参考書 | なし | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 放射線技師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 放射線技師としての経験を活かし、医療機関における安全対策について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **医療安全** | |
| 開講時期 | ２年後期 | |
| 授業時間/授業回数 | 10時間/５回 | |
| 担当者 | 石川　美佐子 | |
| 授業形態 | 講義 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．ヒューマンエラーと人間の基本的特性との関係について理解する  ２．医療機関における安全対策について理解する  ３．看護における安全対策について理解する  ４．医療事故後の対応について理解する | |
| 授業計画 | １．実習体験を通して考える医療安全と対策  ２．治療援助技術、生活援助技術が安全に実施できるための知識  ３．治療援助技術、生活援助技術が安全に実施できるための根拠の説明  ４．治療援助技術、生活援助技術が安全に実施できる | |
| その他の授業の工夫 | 演習 | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | なし | |
| テキスト/参考書 | なし | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での臨床経験を活かし、診療の補助業務における事故防止の実践について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **技術の統合** | |
| 開講時期 | ２年 | |
| 授業時間/授業回数 | ３０時間/１５回 | |
| 担当者 | 青木　由美子 | |
| 授業形態 | 講義・演習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．既習の知識・技術を統合し、対象に配慮しながら対象の状態に応じた確実な看護技術を習得する  ２．対象の状況を判断し、優先順位の決定や時間管理の技術を学ぶ  ３．倫理的観点を基盤とし、対象の安全と安心を守るケアを提案できる | |
| 授業計画 | １　　看護実践力の向上とは、進め方、演習に向けての事例提示  ２　　事例の学習した内容の確認  ３　　多重課題と時間管理の事例DVD学習  ４　　受け持ち４事例の１日の行動計画立案  ５　　受け持ち２事例提示、行動計画立案、今後の演習の進め方の説明  ６　　受け持ち患者の現在の様子を提示、演習室にて物品・技術の確認、知識の確認テスト  ７　　学生ペア、担当時間提示、演習技術、動線などの確認  ８　　学生ペア、担当時間提示、演習技術、動線などの確認  ９　　統合演習  10　　統合演習  11　　統合演習・グループ評価（患者体験を踏まえて）  12 後期：統合演習・シナリオ作成（グループ活動）  13　　後期：統合演習・ロールプレイング（グループ活動）  14　　後期：統合演習・ロールプレイング（グループ活動）  15　　後期：統合演習振り返り、看護実践能力自己評価 | |
| その他の授業の工夫 | DVD視聴 | |
| 時間外学修 |  | |
| 評価方法と評価割合 | 技術確認試験・技術評価・記録類 | |
| テキスト/参考書 | 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での臨床経験での経験を活かし、対象の状態に応じた確実な看護技術と複数患者への看護実践についついて授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **在宅看護論実習** | |
| 開講時期 | ２年 | |
| 授業時間/授業日数 | ９０時間/１２日 | |
| 担当者 | 専任教員 | |
| 授業形態 | 実習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | １．地域保健福祉総合サービスセンター各機関の働きと役割を理解する  ２．精神科デイケアセンターを通して地域医療について考える  ３．地域で生活を継続できるように支援するためのマネジメント機能や関連職種との連携を理解する  ４．ケアチームの中で看護者の果たす役割を考える  ５．在宅療養を支える制度・社会資源、在宅ケアシステムの実際を学ぶ  ６．療養者および家族のニーズに応えた在宅看護の基礎を学ぶ | |
| 授業計画 | 実習要項参照 | |
| 評価方法と評価割合 | 実習要項　参照 | |
| テキスト/参考書 | 在宅看護論　実習要項 | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 総合病院での臨床経験と訪問看護ステーションでの経験を活かし、療養者および家族のニーズに応えた在宅看護の基礎と地域で生活を継続できるように支援するためのマネジメント機能や関連職種との連携について授業する | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目名 | **看護の統合と実践実習** | |
| 開講時期 | ２年 | |
| 授業時間/授業回数 | ９０時間/１２日 | |
| 担当者 | 専任教員 | |
| 授業形態 | 実習 | |
| 科目のねらい  到達目標 | チームの一員として、看護業務にかかわるなかで看護専門職としての役割を理解し、自覚と責任を養う | |
| 授業計画 | 実習要項参照 | |
| 評価方法と評価割合 | 実習要項　参照 | |
| テキスト/参考書 | 看護の統合と実践　実習要項参照 | |
| 教員の実務経験 | 有・無 |  |
| 内　容 | 看護師 |
| 実務経験をいかした  教育内容 | 豊富な臨床経験を活かし、複数の患者を受け持つ看護実践を通して、チームの一員として看護業務にかかわるなかでの看護専門職としての役割について授業する | |